

統監政治

を待遇する地に我が在韓日民に倣ひ我が邦人の權利を保護するまでも韓人の利益と尊重するを以て施政の方針と確定し、日本人官吏に訓令するに一意韓國政府並に韓人官吏に留念して以て日本なる觀念を拂ひ去りては、恩惠の概念を以て亡國に顧せる國家を永久に互りに整理改善すべしとなす。

昨年能登の暴風に舟が打ち破れ、私利公利の權を奪つた。伊藤公が銅像を建て遣はさるまでは幾ら飢れても裝飾設備に至らざる體もなし腰刀及び窓下の如き變装所と同様シヨジを用ひぬ。

年毎に増加する所の統監が韓國の利益を阻害すと信ずる所、虎の子を生捕りし思ひにかしづきまつ英義王殿下が長白山頭上に伊藤公が銅像を建て遣はさるまでは幾ら飢れても裝飾設備に至らざる體もなし腰刀及び窓下の如き變装所と同様シヨジを用ひぬ。

五年に増加する所の統監が韓國の利益を阻害すると信ずる所、虎の子を生捕りし思ひにかしづきまつ英義王殿下が長白山頭に伊藤公が銅像を建て遣はさるまでは幾ら飢れても裝飾設備に至らざる體もなし腰刀及び窓下の如き變装所と同様シヨジを用ひぬ。

國王の改善共に涉々に過ぎるに之を要すに餘りて分明正大に通せらるる伊藤公が統監としての就王よ今日の吉果に見て瀧に五

鐵器の次は配膳室にて最も簡便な向ひ券席を汽溜風器、地下室の厨房より御料理を運ぶに昇降器皆最新の新工風に成れり。

窓下はオリーブ色の西側、天井の油繪は越後縣機倉農具裝飾物無矢前所開園の食料品

に統府監役に成りし正味を譽れれば先づ何かるも、生命財産の保護は第一外國人第二韓人に對し非常の恩恵を敷けど上は太皇帝下で庶民に至る迄伊藤統監の德を讃歌するもの夥に幾何ぞ。

東三の間を罷て二の間に入る高麗なる石目鏡の鏡蓋を對して、板の上の大壁龕は狝狝たる饗食武士三、四、五位上座を隅へして林下を過る是れ故哉漢王壽伯最後の大作にして今がて此後西間の織物に繙出され當に代りて此

間所に沿へる彼の奥廳下に通ずる廊ありける白濁の床、床、肉石の欄干、廊下室の御内、より登み上げたる石の臺蓋にして雲の梯、より申すべし御食後眺望のい佳き處を愛て

拾つて御坐遊遊するべき處と云ふは、

かくる。宏量、大度の政治家と見るに至ぬ。韓國官指を以て著する我が官吏を蔑視せしめ、指導の實行者として我が職任命をなされたる日本人官吏に在りても我より寛定の官等人員は半ば韓國政府の異境に因りて抹殺せざるを得ない。

御室を飾るべしどぞ一の間を出づれば即ち皇太子殿下の御學問所しにて御書齋、御用卓、御衣飾間の類何れも最良のマホーニにて作られ精緻なる彫刻技巧の陶器なり。殿下の亮せ給ふべき御椅子は燦々地に

豫備室を経て喫煙室に入れば壁天井ととも全部石膏畫にて紅青綠紫の色を一松様に染め、壁障には更に純白模様の陶器を疊みられたる上に七寶の畫に遊べるかど懸れて丹塗の研麗見る目も統なく此室は絶して土革古の

の源泉は宮内府に採用せられたるもの小宮次郎以下僅に二十四名、是の状態でして、一族は七十名に垂んとす、是の状態でして、財政其の他諸般の改善指導を行ひ得べしとするの柱樁は石荷に汎金を施せるもの五色彩直ち知らざる此を彼の大階段を挿んで大庭園と相連するのを、装飾の美は大衆園と同じく、

採用はせられたり、唯唯下り宜宜忍容なる
統治政治を如何せん、各都府に宜く都務
を總理し法規を体して決して冒濫を捺さ
ざるを奈何せん、次官に甘んじたる英才は各
都大吏の寵愛ありて皇帝に咫尺する事さ
へ叶はるゝをいかにせん、皇位の爲に其は
し美盡せる結縛は到底筆舌の勞隔し得べ
き所にあらず
御學問所と奥座下一重を隔てゝ寢安所あり
傳國アノ一二世時代の様式に倣へるなり
とか石冨金流の睡れやかなる色彩に慣れた
りとか金流をこつてくはるゝに現はるゝ
觀者をして唯だ恍然自失せしむ

火災保險率 (上)

我が火災保險界の混沌たるや既に久し然
ごも社會の益進歩し經濟の發達著るしき
を奈何せん、

りとして調査せらるゝ位のものたるなり、
 正而なる食器飾棚、壁には一尺の片布も敷
 敷十個、何れも格段形なるを押したれば四
 角、紅の本色これに染めて一層の快成あり
 て必要な事論を述べたす其の經營者たる
 策の專業にして又兼て補助的商業技術者
 であるべきを論じてゐる。又、

保險業の物與せんとする候に呈するや、大會社として稍、慷慨するに足る可きもの外に、幾多の小會社並、起し各社競争の結果、争ひて保險率を低下し心ある者として却て保險契約の危険を感じて躊躇しむる程に至りしに、無謀の競争をして續く能はざるは當然の理にて其の懐、勘定より遂に協定の必要を感じ昨午五月に至りて五大社共通の協定は使用に堪へず（此の事は昨秋實驗せし處ならん）獨り支那人のみ僅く不潔の勞働に堪へべきも方今在留支那勞働者の多きには人員不足なり何れにして五十員以下の賃金にては充分ならず（三）費用徴收の事に付ては未だ委員會の意見を聽かず然も之れ最も困難の問題なり目下月本居留地は人頭一ヶ月金二十錢宛なれど

元來保險業の協定は久しき以前より問題となつて協定を遂ぐるに非ずんば到底新案の維持發達を期す可からざるは必ずしも識者に非ざらんや。然るに當業者の等しと認むる所なり。如何にせん公議の心なく永遠の利を見るものたる礫石と對照すべし（一）速報は東京附屬（韓國の農事進歩速而して豫は火藥の原料と爲る礫石と對照すべし（二）速報は東京附屬

なく唯目前の利を追ふて走る事恰も洋草の
近新俗態に於て用ひける長形の桶に於て蓋を
付したるの如く馬牛を以て肥料製する
所に運搬すべし斯の如くすれば人夫を以て
如き人達の集まりとて一箇協成なる直に
敗れ甚だしきは昨の協成提督者は今度の破壞
收れたる協成提督者は今度の破壞
者となる有様に於て混濁の疑はれざるを得
大旗なりしが昨年五月の協成は稍平衡を得
るに於て其協定の資本と要するもの地方

打撃を興へ同業者をして同意損限せしめり全
國五大會社は東京に會合して其の協定率を
遂に最低年千分の五と約定し本年の一
月一日より早速之を實行すて試みて之を昨
年比半の協定率にせしむるに二割にて同業
者五社の協定率にせしむるに二割にて同業

層屬諸機關の設備に至りては能く繁華の幸
す處にあらず委員諸君に於て若し早見を經
るの意へたれば請ふ書を重て之を詳説すべ
き事に依は一官自ら由來官府の施設事業往
後費を要し徒らに其の名を美にし其の實

一月に比すれば四倍以上に上りて世人が突
 飛なる昂騰として之を迎ふる故なきに非ず
 と謂ふ可し

寄 書

莫我育主會々望

舉るざるもの勢からず客防衛事業の如
 記憶に新たなる處なり願くば官權萬能主
 を棄て廣く公衆の意見を徴せられんことを
 希望の至りに堪へず

文 拈

會の意見なるもの甚だ辻違ひの類たるを免れ
予余は素と一介の書生衛生上の責務なし然
れども事苟も公共の利害に關す豈一言な
天地もみなあらたまる心地して年の朝の曉

快するまで待にせるさ。

それよりか必ず無くてならないのは、日々々々「眞箇だよ、眞箇無牌受領だ。疑うならぬに費す君の小遣錢だ、僕も知つての通り方それ此を見給へ……」と、件々の書面を渡したまふ見せる。山田は



だ。どうだい、君も可厭ではあらうが、斯う云
 う非常な場合なんだから、和出垣から少し
 補助して貰つては、
 破を得たに相違ないゆゑ、病氣を厭はず、覺
 を起さぬ。置れた顔に笑を泛べ、
 「不思議だね。何うしたのだらう、僕の意
 に鑑牌を下れるなんて、全て夢のやうな事
 だ、何かの間違ひや無いだらうか、
 口はさういふやうな事を言ふ、
 植助して貰つては、

「僕は頭固めのやうなけれども、假令このやうに同時に思はれたい辭でも聞かぬかのやうに死んで了つても和田氏の保護は受けない決心だ。決心だ。」

小道達に不自由など云へば不自由だけれども白眉であつた。僕は形骸が世々に君の出品を待てまつたのである。

「それらや君は、無算敷に出したんだね、誰の出品だらうかと思つて見てもない。實に海内人の精なら間違でも何でもない。」

僕は形骸が世々に君の出品を待てまつたのである。

折から、入つて来たのは下女のみまつで、
「唯今、郵便が来ましてございます。」
と、一通のは書を置いて、山田の客体を其
の方も實に萬感だ、これで病氣も全快する
かも知らん、はういふ。」
と、愉快さうに笑つた。



十九個を仁川陸軍運輸隊に揚陸する筈也と
●千賀丸の輸送 昨日仁川を出帆したる
千賀丸にて仁川陸軍運輸隊より木浦守備隊
行糧食百四十四個を輸送したりと

-91-

